あなたと博物館

松本市立博物館ニュース　No.205　2016.7.1

山と共に ～人と自然がつながる社会へ～

第１回「山の日」記念全国大会 in 上高地

平成 28 年 8 月 11 日の「山の日」施行を記念して、第 1 回「山の日」記念全国大会が松本市で開催されます。世界で初めての「山」を対象とした祝日の誕生を機に、長野県内では山の魅力や価値を発信する様々な行事が開催されます。この夏、松本市立博物館、松本市山と自然博物館では、山をテーマとする展覧会を開催します。

美ヶ原 王ヶ頭から王ヶ鼻を望む
（平成 28 年 5 月撮影）

もくじ

誌上博物館 ◇ 第１回「山の日」記念全国大会関連行事
「まつもとの名山１～美ヶ原の自然と歴史～」……2
「山岳画家・武井真澂　先行公開展」……3
博物館TOPICS ◇ 平和都市宣言30周年記念事業
特別展「戦争と平和展ー戦争の記憶と記録から平和を考える」……4
ガイドコーナー展覧会……6
博物館TOPICS◇まつもとの七夕2016 ……8
ガイドコーナーはんてんぼく ……8

第１回「山の日」記念全国大会関連行事

平成 26 年(2014) に制定された「山の日」は、本年施行を迎えます。同年、長野県でも「信州山の日」(7 月第 4 日曜日) が制定され、7 月 15 日から 8 月 14 日は「信州山の月間」として、山に親しむ期間となっています。

今年は 8 月 11 日に第 1 回「山の日」記念全国大会 in 上高地が開催されます。それに合わせて、松本市立博物館と、山と自然博物館で連携して展覧会を開催します。

松本市山と自然博物館 Tel.0263-38-0012

まつもとの名山1～美ヶ原の自然と歴史～

山と自然博物館では、松本市内に 6 座ある百名山（深田久弥著『日本百名山』所載）から、松本市民にとって最も身近な山のひとつである美ヶ原を紹介します。

1　美ヶ原の歴史と文化

蓼科山・八ヶ岳・富士山（王ヶ鼻から）

美ヶ原という地名には、どことなく近代的な響きがありますが、実は江戸時代からその名がありました。江戸時代中期、享保 9 年（1724）に松本藩主水野氏によって編纂された『信府統記』には、「（前略）うつくしが原と云あり此原は山の上の平にて凡そ二三里に及へり是より富士山其外近国の大山皆見ゆ（後略）」と記載があり、現在と同じく眺望に優れた場所であったことがわかります。同じく水野氏によって作られた『信濃国松本藩領大絵図』にも、「うつくしが原」・「王が鼻」の地名を読み取ることができます（上図）。

『信濃国松本藩領大絵図』松本城管理事務所蔵

王ヶ鼻にある王ヶ鼻神社は御嶽信仰によるもので、多くの石造物は御嶽山の方角を向いて建てられており、現在も毎年例祭が行われています。

松本市に住む多くの人々にとっては、松本の東にある山として、「東山」と呼ぶのが一般的だったようで、美ヶ原の名が広く知られるようになるのは、近代になって登山が行われるようになってからです。

2　美ヶ原の利用

美ヶ原は、近代以降さまざまに利用されるようになりました。ひとつは、登山地・観光地としての利用が挙げられます。最初の美ヶ原への登山は、明治 43 年（1910）で、それ以降多くの登山者が訪れるようになりました。同時に遭難事故もたびたび発生し、昭和 4 年（1929）には、旧制松本第二中学校（現松本県ヶ丘高校）の生徒 2 名が遭難・凍死する事故がありました。それをひとつのきっかけとして、美ヶ原高原の開拓者の山本俊一が、周囲の協力を得ながら昭和 8 年（1933）に山本小屋を開設し、登山道・道標の整備も行いました。彼の尽力によって登山地としての美ヶ原の名はさらに知られるようになり、現代の観光地へとつながります。

もうひとつの利用は、電波塔の建設です。戦前の王ヶ頭は一面の草原でしたが、戦後にテレビ通信などのための鉄塔が次々に建設され、その場所には「電波銀座を拓く」の碑が建てられました。現在では、鉄塔群のある一帯が王ヶ頭であるというイメージが定着しています。

3　美ヶ原の自然

美ヶ原は標高 2000m 前後の高原ですが、多数の植物がみられ、このうち高山植物は 200 種類ほどあるといわれます。本来は標高 2500m 以上で生育する高山植物が亜高山帯である美ヶ原で生育できる要因は、南西（谷側）からの強風や不安定な土壌などと考えられています。それらによって高山帯に近い環境となり、コケモモやヤナギランといった植物が生育しています。しかし近年、高山植物は減少傾向にあります。要因としては、人による乱獲、シカの食害、ササの繁茂などが挙げられます。

シロバナノヘビイチゴ（王ヶ頭下）

夏の美ヶ原では、放牧されている牛たちを見ることができます。この牧場は大正時代に開設されたもので、100 年以上続いています。牧場として使われてきた台上は、人の手によって管理された草原、すなわち半自然草原と呼ばれる景観になり、そこには麓の三城などで羽化したチョウが舞い上がってきて、吸蜜している姿がみられるようになりました。美ヶ原は昆虫少年のあこがれの地になり、旧制松本高等学校に通っていた北杜夫も、昭和 20 年頃に昆虫採集をしています。彼が採集した中には、現在は見られなくなった昆虫もあります。現在、

牛とふれ合う（美ヶ原牧場）

高山植物の保護の観点などから牧場内への立入りは禁止されています。

4　学校の美ヶ原登山

美ヶ原登山の子どもたち（本郷小学校）

山国信州では、多くの学校で登山を行っています。松本市内の小学校に通った多くの方は、美ヶ原登山を経験していると思います。旧開智学校にある戦前の登山要項には、早朝に学校を出発し、翌日には百曲りを登った後、武石を回って下山したことが記されており、その行程は往復約 48km に及びます。現在はそこまで歩きませんが、例年 6 月頃を中心に、台上には子どもたちの歓声が響いています。

5　おわりに

昭和 30 年代と比較すると、美ヶ原を訪れる人は少なくなってきているようです。かつては松本駅前からバスが連なって美ヶ原に向かったといいますが、現在は季節限定的な運行になっています。

それでも、夏の時期には涼しい高原で過ごす人は少なくありません。かつては山登りをしないとたどり着けなかった台上も現在では、松本市街地から車で 1 時間ほどで到着できます。そこから 1 時間もかからずに美ヶ原最高所の王ヶ頭に立つことができます。天気がよければ富士山、御嶽山などの眺望を楽しむことができます。本展示をご覧いただき、美ヶ原の魅力を再認識していただければ幸いです。この機会に、気軽に登ることができる百名山―美ヶ原を歩いてみてはいかがでしょうか。

（松本市山と自然博物館　学芸員 / 澤柳秀利）

まつもとの名山1　～美ヶ原の自然と歴史～

［会　期］7 月 15 日㊎～ 9 月 4 日㊐
月曜日休館　※祝日の場合は、翌日休館（8月1日、8日、15日は開館）
［会　場］山と自然博物館 2 階常設展示室
［料　金］大人 300 円、小中学生無料

松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

山岳画家・武井真澂（しんちょう）　先行公開展

写生帳『箱根　其他冨士』より

武井真澂（1875～1957）は、明治8年（1875）に豊田村（現諏訪市）で生まれます。東京美術学校の鋳金（ちゅうきん）科（か）に在籍し、卒業後は小山正太郎に洋画、児玉果亭・藤森紫僊（しせん）らに日本画を学びました。

明治 33 年（1900）、旧制松本中学校（現松本深志高校）の図画教師となり、大正 3 年（1914）まで教鞭をとります。この間の教え子には、郷原古統、小沢秋成、河越虎之進など、多くの作家がいます。

「日本アルプスの主」と称されたことのある武井は、山を描いた多くの作品を残しています。

武井は、明治 23 年（1890）に戸隠山で植物採集を行った時に見た、大雷雨のあとに光る山々の美しさに魅せられ、それを描き出したい一心で山に入るようになったといわれます。残されたスケッチには、山・植物・魚・人物・雲・石などが多岐にわたって描かれ、植物学者や気象学者にも絶賛されました。

松本市立博物館では、平成 24 年度に武井真澂のご遺族から、寄贈を前提に写生帳・野帳・巻子・写真などの資料一式をお預かりし、現在は資料整理を進めています。

日本山岳会に属し、日本山岳画協会の設立にもかかわった武井真澂が残したこれらの作品は、美術史・近代登山史の中で重要な資料群に位置付けられるものです。

今回の展示で先行公開する作品は、そのうちのごく一部ですが、この機会にぜひご覧ください。

（松本市立博物館　学芸員 / 丸山和子）

山岳画家・武井真澂　先行公開展

［会　期］7月15日㊎～9月4日㊐ ※会期中無休
［会　場］松本市立博物館　1階ロビー
［料　金］大人 200 円、小中学生 100 円

松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

平和都市宣言３０周年記念事業
特別展「戦争と平和展－戦争の記憶と記録から平和を考える」

1　はじめに

松本市は、昭和 61 年（1986）9 月 25 日に「平和都市宣言」を行い、以後、平和祈念式典をはじめとした多彩な平和祈念事業に取り組んでいます。今年、30 周年という節目を迎えるにあたり、市全体で平和を創る取組みを推進する記念事業が展開されています。

松本市立博物館では、30 周年記念事業の一環として、特別展「戦争と平和展－戦争の記憶と記録から平和を考える」を開催し、博物館が開館以来 110 年間にわたって収集してきた戦争関係資料の展示と、平和都市宣言以降の平和事業を紹介します。また、まるごと博物館連携事業として、3 分館（重要文化財旧開智学校校舎、窪田空穂記念館、松本市歴史の里）で各施設の特徴を活かした戦争関連資料の特別展示を行います。

2　明治三十七、八年戦役紀念館と松本紀念館の戦争資料

松本市立博物館は、明治39年（1906）9月21日、当時の松本尋常高等小学校（以下「小学校」と略す）内に「明治三十七、八年戦役紀念館（以下「戦役紀念館」と略す）」として産声を上げました。開館当初の収集品、陳列品の多くは、明治三十七、八年戦役（日露戦争）に出征した松本出身の兵士が小学校に贈った戦役品でした。戦役品には、ロシア兵の肩章や大陸の草花、紙幣、大日本帝国海軍艦艇の写真、絵葉書などがあり、これらの資料は小学校の児童・教員のほか、広く松本町民をはじめとする人々にも公開されました。この当時、実物資料を学校教育に活用するだけではなく、人々が見学できるようにしたことは先進的なことでした。一方で戦役品の収集・陳列は、国を豊かにし、強い軍隊を持つことで欧米列強に肩を並べることを悲願としていた明治時代の世相を色濃く反映していたといえます。

明治三十七、八年戦役紀念館のスタンプが押された絵葉書
日露戦争では、戦地の情報を伝える最先端のメディアとして絵葉書が使われた。現在では、当時の歴史を振り返る貴重な資料となっている。

大正期に入ると戦役紀念館の収集・陳列資料は戦役品だけではなく、郷土に関係する資料が多くなっていきます。大正元年（1912）には、県から通俗教育の奨励金交付を受け、その後、施設の名称も「松本紀念館」へと変更されます。また、果たす役割も単なる戦役品の陳列から、郷土教育の推進へと変わっていった時代です。しかしながら、戦争関係資料の寄贈は相変わらず続き、日露戦争関係資料に加えて、第一次世界大戦に関連する資料が博物館の収蔵資料となっています。

戦地から届いた書簡
第一次世界大戦中、歩兵第23旅団長の堀内文次郎少将が松本小学校長に宛てた書簡

これまでふれてきたように、松本市立博物館の前身である戦役紀念館と松本紀念館は、日露戦争関係資料、第一次世界大戦関係資料を数多く収集し、関連資料を通して戦争の記録を後世へ伝える役割を担っていました。しかし、これらの資料は昭和 20 年の終戦以降、ほとんど展示されてきませんでした。博物館に収蔵されながら、長らく紹介する機会がなかった資料を今回の展示で紹介します。太平洋戦争関係資料と併せてご覧いただくことで、近代の戦争を捉える機会としていただければと思います。

3　戦争と平和展から平和を考える

近年、松本市立博物館への太平洋戦争関連資料の寄贈が相次いでいます。創設の経過で戦争資料と深く関わりをもった当館は、戦争資料を後世に残すとともに、戦争を実際に体験した方々の記憶を次の世代に継承していく役割を担っていると考えます。本展が、明治以降に日本が関わった戦争を知る機会となり、平和の連鎖が拡がっていくことを願います。

（松本市立博物館　学芸員 / 一ノ瀬幸治）

特別展「戦争と平和展–戦争の記憶と記録から平和を考える」

［会　期］８月６日㊏～９月 25 日㊐
［会　場］松本市立博物館
［料　金］大人 200 円、小中学生 100 円

重文旧開智学校校舎 Tel.0263-32-5725

戦争と平和展「戦時下の開智学校～子どもの日記からみる戦争～」

［会　期］８月６日㊏～９月25日㊐
［会　場］重要文化財旧開智学校校舎

近年、旧開智学校に寄贈された資料に「手塚佳子日記帳」があります。この資料は、開智国民学校に通っていた手塚佳子さんが、小学５年生であった昭和20年（1945）４月３日から６月28日までの日々の様子を記した日記帳です。

手塚佳子日記帳　昭和20年

この日記帳には、「今でもいいから戦場へ行って米英をたたきつぶしてやろうと思った。」や、「先生は兵隊に行くのだ。私は何となくさびしいやうな気がしてたまらなかった。」など、小学生の目から見た戦時下の生活の様子が記されています。

旧開智学校の所蔵資料の中では、最も戦争の様子を生々しく教えてくれるものです。

昭和20年の沖縄戦やドイツ降伏といった歴史的な出来事の裏で、松本に住む一人の女児が何を思い、日々を暮らしていたかを関連資料とともに紹介します。

（重要文化財旧開智学校校舎　学芸員／遠藤正教）

窪田空穂記念館 Tel.0263-48-3440

戦争と平和展「茂二郎を奪ったシベリア抑留」

［会　期］８月６日㊏～９月25日㊐
［会　場］窪田空穂記念館

明治生まれの歌人・窪田空穂（くぼたうつぼ）の作る歌は、難しいイメージがあるようですが、背景には人生での挫折や苦悩からくる人間としての深さがあるように思います。次男・茂二郎（しげじろう）との別れもそうした経験のひとつです。

茂二郎の応召前に鬼怒川温泉にて
（前列左・茂二郎、右・空穂）

昭和18年（1943）、茂二郎は25才で応召され、中国の部隊に派遣されます。空穂は病弱な茂二郎が気がかりでしたが、終戦を迎えても生死は不明でした。わが子の帰りを待つ空穂の願いもむなしく、復員船にその姿はありませんでした。

昭和22年（1947）、茂二郎の戦友が訪ねてきた時、空穂は茂二郎がシベリアで病死したことを知ります。70歳の空穂の身には、さぞこたえたことでしょう。悲しみと怒りによるやり場のない思いは、長歌「捕虜の死」に詠まれています。

今回、当館では、茂二郎にまつわる歌や資料を紹介します。空穂の戦争体験を通して、戦争の悲惨さと平和の尊さを今一度噛みしめていただく機会になればと思います。

（窪田空穂記念館　学芸員／高山直樹）

松本市歴史の里 Tel.0263-47-4515

戦争と平和展「山本茂実と戦争」

［会　期］８月６日㊏～９月25日㊐
［会　場］松本市歴史の里

松本市出身で「あゝ野麦峠」の作者である山本茂実は、昭和12年（1937）12月に近衛歩兵第三連隊に入営し、２年後の14年12月に近衛第二旅団南支那派遣軍の一員として、南中国の南寧（なんねい）に出兵しています。本展示では、当館の山本茂実コレクションのなかから、日記や連隊入営時の写真などを展示し、山本茂実が感じた戦争をご紹介します。

（松本市歴史の里　学芸員／千賀康孝）

日記（昭和７年２月26日・27日）

企画展「バンカラ目線で松本歩き」

企画展「バンカラ目線で松本歩き」

昭和17(1942)年の卒業アルバムから

全国各地から進学のために集まった旧制松本高校生(以下、松高生)たち。理科乙類クラスの第22回(昭和17年)卒業アルバムに収められていた地図を中心に、彼らがどのような場所で青春を過ごしたのかをさぐります。

松高生たちが愛したかつての松本の姿を現代の街中に探すことで、松本の過去や松高生を身近に感じていただければ幸いです。

会　期　7月16日(土)～9月11日(日)
　　月曜休館※祝日の場合は、翌日休館
会　場　旧制高等学校記念館
料　金　無料(常設展示は通常観覧料)

主催事業「第21回夏期教育セミナー」

第21回夏期教育セミナー

研究者と市民が一緒に学ぶ、夏期教育セミナーを今年も開催します。

初日のテーマは「応援団の歴史と現在」とし、応援活動と応援団の変遷について学びます。また、現代の代表として、松本深志高校応援団に応援の様子を披露していただきます。

日　時　1日目…8月27日(土)シンポジウム※無料
　　2日目…8月28日(日)研究発表会
問合せ　旧制高等学校記念館へ
　　(TEL0263-35-6226)

駅伝の前日応援の様子

企画展「工女宿宝来屋と野麦街道」

飛騨高山と信州松本を結ぶ野麦街道。

野麦街道で運ばれたモノでは、年取り魚のブリがよく知られています。富山湾で獲れたブリは、岐阜県の高山を経由し、ボッカや牛方によって松本に届けられました。また、諏訪地方の製糸工場で働く工女たちも野麦街道を通りました。工女たちは、1年間働いた給料をもって家族のもとに帰るため、12月末に寒さの厳しい野麦街道を歩いたのです。当館に移築された工女宿宝来屋に残された宿人帳には、12月になると多くの工女が宿泊していたことが記されています。

現在では、松本から高山までは国道やトンネルが整備され、冬でも快適に往来できるようになりました。しかし、街道を考えるとき、現在の道路を自動車でたどってしまうと、本来の街道の姿はかえって見えにくくなります。

野麦峠から見る乗鞍岳

厳しい自然環境のなか、整備されていない道を徒歩で進むからこそ、野麦街道を通って届けられるブリが年取り魚になり、野麦峠を越えて故郷に帰る工女たちの悲喜や、工女宿としての宝来屋が理解できるのではないでしょうか。

工女宿宝来屋

本展では、そうした視点で工女宿宝来屋と野麦街道をご紹介します。

会　期　7月23日(土)～9月11日(日)
　　月曜休館※祝日の場合は、翌日休館
会　場　松本市歴史の里
料　金　通常観覧料(大人400円、小中学生無料)
問合せ　松本市歴史の里へ(TEL0263-47-4515)

夏期特別展「鐘の音色と歯車の美」

松本市時計博物館では毎年、夏休みに合わせて夏期特別展を開催しています。今年は「鐘の音色と歯車の美」と題して、時計の音と動きを楽しんでいただく展示を行います。

鐘により時間を知らせる機構は、紀元前 270 年以降の古代ギリシャまで遡り、天文学者が水時計を改良した際に取り付けられたのが始まりといわれています。時計の鐘の音は、きれいな音や聞こえやすい音など、時計ごとに個性があり、聴く人を楽しませてくれます。

また、歯車の歴史は古く、紀元前 150 年頃から使われています。光を浴びると金属光沢を放ち、一定のリズムを刻む動きは、見る者の目を釘づけにします。

本展では、時計が奏でる鐘の音と、時計内部の歯車の動きをゆっくり鑑賞できる展示を行います。

普段は接することが少ない機械時計の動きと音を、この機会にぜひお楽しみください。

鳩時計

スケルトンクロック

会　期　7月23日(土)～8月28日(日)
　　月曜休館※8月15日は臨時開館
会　場　松本市時計博物館　3階企画展示室
料　金　通常観覧料(大人300円、小中学生150円)
問合せ　松本市時計博物館へ(TEL0263-36-0969)

四賀化石館夏期特別展「まつもとの深海～シロウリガイ類の秘密」

暗黒の深海でたくましく生きるシロウリガイ類。その化石が松本市四賀地区で多産するのはなぜなのか。

シロウリガイ類の特殊な生態を説明することで、松本市にかつてあった深海の存在にせまります。

シロウリガイ類が密集した化石

会　期　7月20日(水)～9月25日(日)
　　月曜休館※祝日の場合は、翌日休館
会　場　松本市四賀化石館
料　金　通常観覧料(大人300円、小中学生150円)

1 記念講演会「新生代に大繁栄したシロウリガイ類～成功の秘密～」

日　時　9月10日(土)午後1時30分～3時
会　場　松本市立博物館　2階講堂
対　象　中学生以上
定　員　60人(予約不要)
料　金　200円
講　師　延原尊美 博士(静岡大学教授)

2 深海体験談「潜水艇で見る今の深海、松本の地層から見る過去の深海」

日　時　8月6日(土)午後1時30分～2時30分
会　場　松本市四賀化石館　2階学習室
対　象　小学生の親子
定　員　50人(予約不要)
料　金　通常観覧料
　　(大人300円、
　　小中学生150円)
講　師　宮嶋佑典氏
　　(京都大学大学院生)

有人潜水艇しんかい6500

3 シロウリガイ類化石採集体験

日　時　8月7日(日)午前9時～11時30分
会　場　四賀地区穴沢(四賀化石館に集合)
対　象　小学4年生以上の親子
定　員　20人
料　金　500円(通常観覧料込)
講　師　小池伯一氏(日本古生物学会会員)
申込み　7月15日(金)以降、電話で松本市四賀化石館へ
問合せ　松本市四賀化石館へ(TEL0263-64-3900)

松本まるごと博物館連携事業

まつもとの七夕 2016

松本市立博物館	Tel.0263-32-0133
重文馬場家住宅	Tel.0263-85-5070
窪田空穂記念館	Tel.0263-48-3440
松本市はかり資料館	Tel.0263-36-1191

松本の風物詩
～松本のまちを彩る七夕人形・笹飾り～

松本地方では七夕のときに男女一対の七夕人形が飾られます。これは全国的にみても貴重な習俗で、ほうとうやまんじゅうといった行事食とともに注目されています。

博物館では今年もまちなか展示を行うほか、博物館連携事業として４館で七夕人形を展示します。

まちなか展示

中心市街地の商店街で七夕人形を飾ります。

会　期　7月16日㊏～8月16日㊋

七夕人形展示

松本市はかり資料館　「町屋で楽しむ七夕さま」

会　期　7月2日㊏～8月16日㊋

重要文化財馬場家住宅　「古民家で楽しむ七夕さま」

会　期　7月2日㊏～8月16日㊋

窪田空穂記念館　「星に願いを」

会　期　7月16日㊏～8月16日㊋

関連イベント

ほうとうサービス

松本では七夕にきなこや小豆あんをあえたほうとうを食べる風習があります。この機会にぜひご賞味ください。

日　時　8月7日㊐午前10時～ ※ほうとうがなくなり次第終了。

会　場　松本市立博物館、はかり資料館、馬場家住宅

市民学芸員による七夕人形作り講座

日　時　8月6日㊏、7日㊐

会　場　松本市立博物館

料　金　通常観覧料（大人200円、小中学生100円）

七夕人形作り講座

日　時　7月10日㊐

会　場　馬場家住宅

料　金　1,100円（材料費）及び通常観覧料（大人300円、中学生以下無料）

古民家でゆかたを着て写真を撮ろう

期　間　7月2日㊏～8月16日㊋

会　場　馬場家住宅

料　金　通常観覧料（大人300円、中学生以下無料）

対　象　小学生以上

ガイドコーナー　はんてんぼく

考古博物館から　☎0263-86-4710

第38回あがたの森考古学ゼミナール
「考古学で覗く松本城」

日　時　第1講：7月10日（日）、第2講：7月24日（日）
　　いずれも午後1時～3時
会　場　あがたの森文化会館講堂ホール
　　※駐車場が少ないので、公共交通機関をご利用ください。
定　員　各講先着100人
料　金　各講200円
講　師　第1講「松本城の構造を考える」
　　中井均氏（滋賀県立大学教授）
　　第2講「松本城の考古学－発掘による新たな発見－」
　　竹内靖長（松本市美術館課長補佐）
申込み　7月1日（金）以降に電話で考古博物館へ

歴史の里から　☎0263-47-4515

バス見学会
「安曇資料館と松本市西部の博物館を巡る」

「山の日」施行を記念し、「山」をテーマに歴史の里と安曇資料館、窪田空穂記念館をバスで巡ります。

日　時　7月16日（土）午前9時～午後3時30分
集　合　午前9時に松本市役所東庁舎前
定　員　20人
料　金　500円（昼食代として別途1,000円程度）
申込み　7月5日（火）以降に電話で歴史の里へ

松本民芸館から　☎0263-33-1569

体験講座「子ども民芸教室」

子どもたちが夏休みのものづくりを楽しめる教室です。布を裂いて織る〈裂織〉と子ども用の椅子を作る〈木工〉の２コースです。

日　時　7月31日（日）午前10時～午後3時
会　場　松本民芸館
対　象　小学校高学年以上
定　員　各コース10人
料　金　500円（材料費）及び通常観覧料（大人300円、中学生以下無料）
講　師　『裂織』山賀照子氏、『木工』竹下賢一氏
持ち物　昼食
申込み　電話で松本民芸館へ

あとがき

企画展「バンカラ目線で松本歩き」に関する卒業アルバムの編集者のひとりに、旧制松本高校で唯一の特攻死を遂げた方がいます。別のアルバムの寄せ書きには、「僕はすべて愛する事にズクの出し惜しみをせぬ人を愛する」という言葉がありました。何事にも一生懸命で愛情深い彼だったからこそ、敗戦への焦りが強くなったのかもしれません。（S.A）

あなたと博物館 No.205
発行年月日/平成28年7月1日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL：http://www.matsu-haku.com/
e-mail：mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp
印刷 川越印刷株式会社